

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月1日
令和2年4月号



被災からの復旧・復興と 園芸振興に向けた県の取組について

千葉県農林水産部生産振興課
課長 須合 健己

本県の園芸は、県農業産出額の約半分を占める重要な部門であり、平成30年の産出額は1,896億円で全国3位となっていますが、昨年が発生した一連の災害により、本県園芸は大きな影響を受けました。県としては、災害からの復旧・復興を進めるとともに、園芸振興に向けた取組を推進して参ります。

1 園芸産地の災害からの復旧・復興に向けて

本県農業は、昨年が発生した台風15号や19号、10月下旬の強風・大雨により、園芸用施設の損壊や果樹の倒木、農作物の流亡や冠水など、450億円を超える過去に類を見ない大きな被害を受けました。県では、災害からの復旧・復興の取組を総合的に推進するため、「千葉県災害復旧・復興に関する指針」を昨年11月に策定し、基本的な考え方の一つとして『農林水産業や商工業など地場産業の力強い復活』を位置付けました。

早期復旧に向け被害発生後に、速やかに国に対して支援を要請するとともに、被害に遭われた生産者の声に直接耳を傾けるため、4,000人に要望調査を行いました。本調査を踏まえ、被災した農業者が営農意欲を失わず一日も早く経営再建するための支援策を策定するとともに、被災された生産者の方々が漏れなく補助事業を活用できるよう周知の徹底を図って参りました。また、災害に強い産地づくりに向けて被害防止マニュアルの作成や研修会の開催、補強資材の導入支援などを進めているところです。

早期復興に向けたPRとしては、応援フェアとして「がんばろう！千葉」をキャッチフレーズに量販店で販促活動を行うとともに、第40回千葉県フラワーフェスティバルや第69回関東東海花の展覧会に

おいて、産地で頑張る生産者を紹介する復興ブースを設置するなど、復旧・復興に向けたメッセージを発信して参りました。

2 令和2年度の園芸振興について

県では、「千葉県農林水産業振興計画」において「農林水産王国・千葉」の復活を掲げており、引き続き「販売力の強化」や「力強い産地づくり」等の推進について、生産者と関係機関が一体となった「オール千葉」体制での取組を進めて参ります。また、高収益型農業を始めとした園芸農業の更なる強化に向けて、ICT等を活用したスマート農業についても引き続き推進を図って参ります。さらに、今年は「東京2020オリンピック・パラリンピック」が開催され、県内でも8競技が行われるなど、世界中から多くの選手や観光客が訪れることから、本県産農産物を国内外にアピールする絶好の機会となります。県では、花を活かした景観づくりによる「おもてなし」や、夏野菜の生産拡大の取組等を通じて、県産農林水産物の魅力を国内外に広くPRして参ります。

県としては、災害からの復旧・復興を強力に推進するとともに、園芸振興に向けた取組を進めることで引き続き「園芸産出額全国第1位」の奪還を目指して参ります。

花植木ニュース



「世界らん展2020—花と緑の祭典—」への出展

千葉県農林水産部 生産振興課 園芸振興室

(執筆者：(現)君津農業事務所 改良普及課 普及技術員 田中智貴)

「世界らん展2020—花と緑の祭典—」において千葉県洋らん生産者組合がディスプレイ展示部門で優良賞を受賞しました。

また、世界らん展では今回初めて千葉県としての県産花きのPR展示と生産者による販売を行いましたので報告します。

1 世界らん展2020—花と緑の祭典—の概要

「世界らん展2020—花と緑の祭典—」が2月14日(金)から2月21日(金)までの8日間、東京ドームで開催され、約9万人が来場しました。

この催しは、世界各地のらんをはじめ、様々な「花」や樹木、多肉植物などの「緑」を一堂に集めた、世界最大級の花のイベントで、今年で30回目を迎えました。

2 千葉県洋らん生産者組合が優良賞を受賞

千葉県洋らん生産者組合では、本県産の洋らんの素晴らしさをPRするため、毎年ディスプレイ審査部門に出展しており、今年も、展示委員長を務めた鏑木組合長を中心に、組合員が丹精込めて育てた蘭をふんだんに使用し、展示作品を完成させました。木(ぼく)や観葉植物を配した自然味あふれるデザインにより、展示テーマ「蘭の森」の名にふさわしい、いきいきと咲き競う蘭の魅力を引き出し、優良賞を受賞しました。

開催期間中は、多くの来場者が当組合の展示の前で足を止め、記念撮影する様子が見られ、千葉の洋らの魅力を感じていただきました。



千葉県洋らん生産者組合ディスプレイ展示「蘭の森」

3 県産花きのPR

千葉県では、毎年IFEX等の展示会に出展し、県産花きのPRを行ってきました。今年度は、新たな試みとして多くの来場者が訪れる世界らん展での出展を行いました。出店者の募集を呼び掛けたところ、県内花き生産者9団体の協力を得てブース展示を行いました。



千葉県ブースでの展示・販売

ブース内では県産花きのPR展示と販売を行い、多くの来場者が撮影や購入のため千葉県ブースを訪れました。「千葉県でこんなに花を作っているなんて知らなかった」、「千葉の花をもっと買いたい」という声があり、千葉県の花を身近に感じてもらえるきっかけになりました。

野菜ニュース



水稻経営体の収益力向上に向けた支援 ～関係機関と連携した加工・業務用ねぎの導入支援～

千葉県農業者総合支援センター

(執筆者: (現)千葉県農林水産部耕地課 主査 長坂卓紀)

千葉県農業者総合支援センターでは、水稻経営体の収益力向上に向けた支援の一つとして、関係機関と連携し、加工・業務用ねぎの導入支援を行っています。

今年度は、ねぎ栽培が初めての水稻農家等を対象に研修会の開催や現地巡回指導を行い、生産者11名が加工・業務用ねぎを導入しました。その結果、排水性の確保、適期の栽培管理、生産コストの削減等の課題が明らかとなり、今後は課題解決を図りながら、取組意向のある生産者に対し、導入・定着を支援していきます。

1 千葉県農業者総合支援センターとは

千葉県農業者総合支援センター(以下、「支援センター」という。)は、千葉県・JAグループ千葉・(公社)千葉県園芸協会・(一社)千葉県農業会議が、生産者からの相談に「ワンフロア・ワンストップ」で対応するため、平成30年4月に千葉市内に設置されました。

支援センターでは、生産技術、機械・施設の導入、農地の集積、販路拡大、経営管理能力の向上等、生産者からの多種多様な相談に対して、職員の直接訪問や電話・メールにより支援を行っています。

2 加工・業務用ねぎの導入支援

平成30年に支援センターが受けた相談の中に、水稻農家から収益力向上に向けた園芸品目の導入について相談がありました。

この相談に対して、支援センター内で検討を進めた結果、①水稻作業と競合が少なく、冬季の作業確保で年間雇用ができる、②機械化が進んでおり園芸品目の栽培経験の少ない水稻農家でも取り組みやすい、③実需者からの需要が年々増加しているといったことから、JAや農業事務所と情報を共有しながら、加工・業務用ねぎの導入を提案することとしました。

3 関係機関と連携した導入支援の取組

加工・業務用ねぎの導入を支援するに当たり、千葉県全体のねぎの振興方向と整合を図るため、全農千葉県本部・県・(公社)千葉県園芸協会の検討の場(品目別協議会ねぎ部門の戦略チーム)に参加し、関係機関と連携しながら取組を進めていくこととしました。

また、平成31年2月に全農千葉県本部が水稻農家の加工・業務用ねぎへの関心を高めるため、ねぎの作付に向けた研修会を開催したところ、生産者約70名が参加しました。

研修会後、導入することになった生産者のうち、早くから関心を持っていた9経営体に対しては、加工・業務用ねぎの実需者が求めるためのねぎを作るため、通常より株間を広げた連結ねぎ苗等を(公社)千葉県園芸協会から提供し、導入実証を行いました。

また、導入者の中には、ねぎ栽培が初めての水稻農家やねぎ産地以外の生産者がいたため、基本的な栽培技術が習得できるよう、JAや農業事務所と連携し個別指導を行うとともに、生産者と関係機関による現地巡回指導を2回行い、生産者同士が情報交換できるように支援しました。現地巡回指導は千葉県農林総合研究センターに協力を依頼し、県内ねぎ産地の情報や知見を得ながら栽培指導を行いました。

さらに、加工・業務用ねぎを中心とした経営を行っている秋田県の農業生産法人(株)正八や、水田地帯でねぎの産地化に取り組んだJAあきた白神、(農)能代グリーンファーム常盤へ、千葉県ねぎ協議会で視察を行い、水田地帯におけるねぎの産地化事例や生産者が加工・業務用ねぎで所得を確保していくための課題について、関係者が共通認識を持つことができました。



左：関係機関との連携会議

右：現地巡回指導

4 今年度の取組結果と今後について

今年度の取組を通じて、加工・業務用ねぎを導入した生産者は11名となりましたが、排水性の確保、稲刈り中の確実なねぎの土寄せや雑草防除、出荷規格に合わせた栽培管理、生産コストの削減、加工業者への運搬方法等の課題が明らかになりました。

次年度は、引き続き関係機関と連携し、今年度明らかになった課題解決を図りながら、加工・業務用ねぎの導入・定着を支援していきます。

また、支援センターでは、水稻経営体の収益力向上に向けた雇用導入や規模拡大等の支援をはじめ、生産者からの様々な相談に対し支援をしていきます。

野菜ニュース



JAかとり大栄集出荷場稼働

かとり農業協同組合
大栄経済センター長 東 泰昭

令和2年4月1日より、新たな販売拠点となる、JAかとり大栄集出荷場が本格稼働します。

1 はじめに

JAかとり大栄経済センター管内では、かんしょを中心に予冷人参、秋冬人参、馬鈴薯、里芋などの栽培が行われています。なかでもかんしょは日本有数の産地であり、「ベニアズマ」「大栄愛娘」「べにはるか」「シルクスイート」の栽培が盛んです。

2 大栄集出荷場新設

JAかたりの出荷組織である香取西部園芸部は48支部で構成されており、全体の過半数は支部ごとの出荷場から独自販売を行っていました。しかし、荷が細分化される問題や、支部での作業負担、施設の老朽化等多くの問題がありました。

そこで、香取西部園芸部より新たな集出荷施設建設の要望があり、今まで各支部で負担していた維持管理、出荷時の労力や時間の負担を減らすことを目的とし、平成30年度産地パワーアップ事業を活用した新たな販売拠点となる、大栄集出荷場を建設いたしました。



広い荷受けスペースを確保した集出荷場



3月16日竣工式が執り行われました

3 今後の展望

令和2年4月1日より本格稼働する大栄集出荷場では、広い荷受けスペースにより改善される荷受け体制や、貯蔵庫及び予冷库、ストックヤードを活用することで、品質の維持が可能になります。



品質の維持管理のための予冷库

また、香取西部園芸部の基本的考え方である、ニーズに合わせた周年出荷を目指します。販売面においては、産地パワーアップ事業の取組目標である契約取引を拡大するため、買取販売、市場買付販売などを積極的に進めていくとともに、東南アジアへの輸出の拡大を図ります。

新たな集出荷体制、販売体制を活かし、今後生産者が規模拡大を目指したいと思える体制を構築していきます。

その他



新規就農者交流会を開催しました

～ 新規就農者の定着に向けて ～

公益社団法人 千葉県園芸協会
千葉県青年農業者等育成センター

千葉県内に新規就農して農業経験の浅い者や就農を予定している者を対象にして、新規就農者交流会を行いました。他産業からの新規参入者が増加する中で、地域に定着して貰うことを目途に、交流会では先輩経営者の経験や経営に対する考え方を学ぶとともに、参加者間の連携と仲間作りに向けた情報交換が行われました。

1 はじめに

農業従事者の高齢化と後継者不足により、担い手への農地集約の流れが速度を速めており、地域では担い手の確保・育成が、規模拡大する経営体では労働力確保が喫緊の課題となっています。

千葉県青年農業者等育成センターでは、「農林水産就業相談会」や「就農相談フェア」を開催するとともに、全国規模で行われる「新・農業人フェア」などに参加して就農相談に応じ、担い手の確保に努めています。

年度	全体	後継者	新規参入	雇用就農
H29	410人	155人	107人	148人
		(37.8%)	(26.1%)	(36.1%)
H30	341人	125人	83人	133人
		(36.7%)	(24.3%)	(39.0%)

近年の千葉県の新規就農者数は300～400人ですが、この内、他産業から農業経営に夢を託して就農してくる新規参入者や雇用就農者は6割強で、担い手として将来の千葉県農業を支える貴重な存在です。

2 新規就農者の定着に向けて

独立就農、雇用就農を問わず、担い手の確保とともに重要なのは、新規就農者が定着してくれることですが、短期間で退職や農業を辞めてしまう人も少なくありません。特に、独立就農者の場合、農作業に追われて時間がないことや就農地に知人が少ない場合が多く、相談相手が少ないことなどが背景にあります。

千葉県青年農業者等育成センターでは、千葉県農業会議や関係機関と連携して、就農後の状況調査を行うなどの支援をしています。

3 新規就農者交流会の開催

この交流会は、新規就農者の定着に向けた活動の一環として、主に独立就農して5年以内の人たちを対象に実施したもので、本年度は61名が参加しました。

新規独立就農者が直面する課題は、「所得・収益の確保」と「労働力の不足」が最も高く、次に「技術の習得・向上」という全国レベルの調査結果があり、新規就農者からは経営方法について知りたいという声も多く聞かれます。

そこで、今年は先輩経営者として、船橋市でニンジンを経営の中心にした都市農業を実践している石神氏に、「就農30年！都市農業での経営発展を目指して」と題して話していただきました。ベータリッチキャロットでのブランド化の話や市場出荷＋直売出荷の経営方法等、経営に対する考え方に加えて幅広い地域活動など、新規就農者の目線に立った話は大変好評でした。



その後、同じような経営をしている人たちが班別(6班)に分かれて、「経営の確立と発展を目指して」をテーマに、経営上の問題点や悩みなどを気軽に話し合っ貰う形で情報交換(意見交換)を行いました。

千葉県青年農業者等育成センター
TEL 043-223-3008
<http://chiba-engei.or.jp/>

県産農林水産物の輸出にチャレンジしよう！ ～輸出補助事業実施者募集のお知らせ～

千葉県農林水産部流通販売課

県では、県産農林水産物及びその加工品の輸出促進に向けて、「千葉の農林水産物輸出促進事業」の実施希望者を募集します。輸出の取組に是非御活用ください。

1 対象団体

市町村、農業協同組合、営農組織等

4 予算額

ソフト2,000万円、ハード400万円

2 対象商品

本県産の農林水産物及びその加工品

5 助成の内容

補助率：事業費の2分の1以内

3 補助・支援対象

千葉の農林水産物輸出支援事業（ソフト）
海外市場調査、輸出に向けた生産体制の整備、
試験輸出、海外での販促活動等に要する経費。
千葉の農林水産物輸出環境整備事業（ハード）
輸出に資する機械・施設等の整備に要する経費。

6 応募方法

県ホームページを参照し（4月上旬頃掲載）、
事業実施計画書を締切日までに御提出ください。

7 問合せ先

千葉県農林水産部流通販売課
TEL：043-223-3086

千葉県農林総合研究センターの新本館が竣工しました

千葉県農林総合研究センター

平成30年度から建設を進めていた新本館が竣工し、3月から新しい庁舎での業務を開始しました。延床面積約5,730㎡の新本館には敷地内に分散していた8つの研究棟の機能が集約され、分野横断的に連携して取り組む必要がある複雑な課題にも、より対応しやすくなりました。

▼ 新庁舎の特徴

・オープンラボの設置

普及指導員、先進農家等が利用でき、研究員と共同で課題解決に取り組める施設

・開放的な実験室

分野横断的な研究や機器共同利用が容易

・大規模な会議室

200人規模にも対応できる大会議室を新設

▼ 所在地・連絡先

千葉県農林総合研究センター

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

※移転しました（電話、FAXは変更なし）

TEL 043-291-0151（代表）

FAX 043-291-5319

<http://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/>



県産材を用いた外観



2階オープンラボ